

日刊木材新聞

発行所 日刊木材新聞社
〒135-0041 東京都江東区冬木23-4
編集・営業 ☎03-3820-3500
FAX03-3820-3519
総務・販売 ☎03-3820-3511
FAX03-3820-3518
<https://jfpj.jp/>
eメール info@n-mokuzai.com
購読料 1ヵ月 6,200円
©日刊木材新聞社 2023
本紙の無断複製(コピー・PDF)配布は、著作権の侵害にあたり違法です。

新しい木の時代へ
Kickoff
木材建材ウィワリー
Japan Lumber Reports
電子版

23年度中に倉庫3棟を新設

大型部材の一時保管などに活用

藤寿産業

藤寿産業(福島県郡山市、西村義一社長)は、2023年度中に倉庫3棟を新設する。大型物件の受注が増えるなか、完成済み部材の一時保管場所や、金物取り付けや塗装といった作業スペースの確保が求められるため、倉庫のうち1棟は木造とする方針だ。

3棟は同社が運営に参画している福島県高度集成材製造センター(FLAM、同双葉郡)から半径5km圏内に設ける。3棟はそれぞれ木造倉庫450坪、鉄

骨造倉庫1000坪と1200坪で、木造倉庫は杉と国産力う松を使用する予定だ。同社では民間物件を中心に受注、見積もりともに増加している。

なかでも、ビルのような都市型の大型木造案件が増えている。

一方、昨年の集成材生産量は2000立方メートルと21年の半分程度に減少した。これは、耐火集成材を使う大型物件が増えるなか、耐火被覆材の製造と荷重支持材となる大断面集成材への張り合わせといった作業が増えたことが影響した。さらに、大

型物件に使われる部材も集成材からムク材、CLTやLVLなど多様化し、仕口や形状の加工も複雑化するなかで、部材加工の作業量も増加している。このため、集成材の製造量は減少しているが、部材加工の量は増加しており、工場全体の作業量も拡大している。

部材が大型化、複雑化するなかで、加工済

み部材を現場に運ぶまでの一時的な保管場所が不足。さらに、塗装や金物取り付けの作業スペースも同社とFLAMだけでは十分ではないと判断し、今回浪江町での倉庫新設に踏み切った。今後は倉庫の整備と運送会社など協力会社を確保しながら、9月ごろから段階的に物流拠点の運用を開始していく予定だ。